

## 「知の拠点」整備構想の改訂の着眼点について

### 1 「知の拠点」整備構想の改訂の着眼点

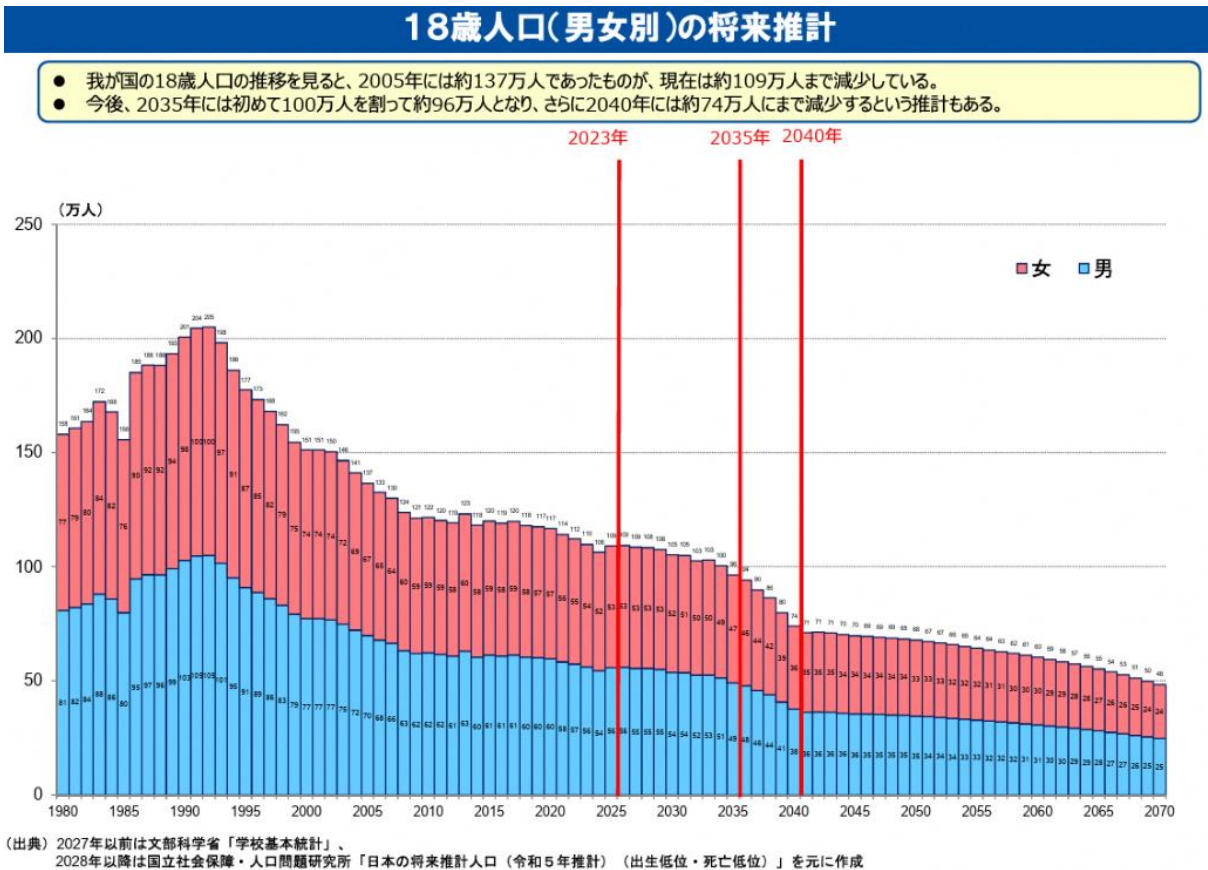
#### (1) 京都工芸繊維大学福知山キャンパスの廃止に伴う「知の拠点」の在り方

平成30年に策定した本構想は、福知山公立大学と隣接する京都工芸繊維大学が「福知山キャンパス」を北近畿地域の地方創生を牽引する「知の拠点」と位置付け、地域を担う人材の育成、若者の定着、産業振興、地域活性化に繋げることを目的に策定したものである。

しかし、京都工芸繊維大学が令和8年3月をもって福知山キャンパスを廃止されたため、今後は、福知山公立大学が単独で知の拠点の機能を担うこととする。

#### (2) 従来予測していた以上に加速する18歳人口の減少に伴う学生確保

我が国の18歳人口は、平成5(1993)年をピークに一貫して減少しているが、令和17(2035)年までは10年かけて10万人程度の減少にとどまる一方、その後急激に減少速度を上げて3年、2年、2年のテンポで10万人ずつ減少する「崖」と言われる急激な減少となる。2040年には74万人まで減少すると言われている。



#### (3) 小中高大連携

京都府立福知山高等学校との協定締結(令和6年10月)、京都府立工業高校との協定締結

(令和8年3月)。協定締結校に限らず、出張講義や協働支援を実施している。

また、小学校、中学校の連携としては、地域の小学校による大学見学の受入れや、中学生を対象としたキャリア教育などを実施している。

#### (4) 地域連携・産学官連携

地域連携・産学官連携のハブとして「北近畿地域連携機構 (Kita-re)<sup>キターレ</sup>」を令和2年4月に設置した。地域と大学を繋ぐリエゾンオフィスとして、日常の交流からプロジェクトまで幅広く、教育研究の地域への還元活動を活発に行っていることは、福知山公立大学の大きな特徴の一つである。

具体的な取組みとしては、産学官連携組織「北近畿コラボスペース」の運営、地元自治会からの相談から始まった「観音寺自治会所蔵近代史料調査・保存プロジェクト」、本市消防本部と連携して AI やデータサイエンスを生かした分析を行った「消防活動における AI 支援」等がある。

#### (5) 施設整備

福知山公立大学の施設の多くは、学校法人成美学園から成美大学（旧京都創成大学）及び成美大学短期大学部（旧京都短期大学）の施設の一部を引き継いだものであり、建築から30年以上が経過している施設もある。

令和2年度の情報学部の新設に合わせて、施設の増改築を行っている。

老朽化、学生数の増加などにより、施設の整備が必要な時期を迎えている。

(現在の施設の概要については【資料1-6】3ページ目「3 主な施設」を参照)

## 2 「知の拠点」整備構想改訂までの流れ

日程	内容
7月6日(月)14:00~	第一回委員会開催 (改訂の概要について説明、意見聴取)
7月~8月	委員の意見・助言を受けて策定本部で構想改訂(素案)を作成
8月	委員へ構想改訂(素案)を送付
8月25日(火)10:00~	第二回委員会開催 (改訂(素案)について説明、協議)
10月	構想改訂(素案)に関わる委員会の意見のとりまとめ【策定本部】 ⇒各委員における確認
10月	構想改訂(案)の作成【策定本部】
10月19日(月)13:30~	第三回委員会開催 (構想改訂(案)の検討のまとめ提出【委員会⇒策定本部】) (改訂(案)の説明【策定本部⇒委員会】)